

# 「日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議」

(公) 日本地球惑星科学連合

## 質問事項

### 学協会と日本学術会議との関係についての認識

### 学協会の立場から、今後日本学術会議に期待する役割

#### 1. 地球惑星科学とは

- \* 「地球・惑星とは何もの、どこからきて、どこへ行くの」に答えようとする基礎科学
- \* 地球環境・自然災害・資源エネルギー問題の根本的対応へ答えようとする応用科学

#### 2. 連合発足の契機

\*2005 学術会議改革によって、地球物理学研連、地質学研連、鉱物学研連、地理学研連などを第3部地球惑星科学委員会として再編。

\*コミュニティーの側（学会群も再編）、連合を発足。

ただし、従来の連絡調整組織としての連合ではなく、学際領域の新規統一学会として機能を持たせる。モデル：アメリカ地球物理学連合、欧州地球科学連合

#### 3. 連合の戦略

「高い峰と広い裾野」：地球惑星科学の発展をリードする世界的学会へ。

##### 4つの戦略

- \* 科学の発展への貢献、
- \* 科学の社会への貢献、
- \* 科学の教育への貢献、
- \* 科学の人材育成への貢献

#### 4. 学術会議と連合の関係と今後の学術会議への期待

\*科学技術政策・行政との調整と連携

\*地球惑星科学の国際活動における調整と連携

ICSU関連の主導は学術会議、個別国、地域別コミュニティーとの対応は連合

例：2015 INQUA (国際第四紀連合) 大会@名古屋 学術会議第3部 INQUA分科会

2015 連合大会国際シンポジウム「Geoscience Ahead」連合国際戦略委員会主催

アメリカ地球物理学連合、欧州地球科学連合、アジアオセアニア地球科学会の

会長・副会長が世界で初めて一堂に会し、今後の地球惑星科学のグローバル連携

について討論、共同声明調印予定 (2015, 5, 26)

「国連型」ICSUと先進国間学会連携の有機的連携によって、世界をリードする。